

教 養

令和2年度において都道府県労働局などに寄せられた労働相談のうち、「いじめ・嫌がらせ」の相談件数は約8万件と9年連続で最多となった。また、令和3年4月に厚生労働省が公表した「職場のハラスメントに関する実態調査報告書」によると、過去3年間に勤務先においてパワーハラスメントを受けたことがある人の割合は31.4%、セクシュアルハラスメントを受けたことがある人の割合は10.2%であるなど、ハラスメント対策は喫緊の課題となっている。

労働施策総合推進法の改正により、令和2年6月から職場におけるパワーハラスメント防止対策が事業主に義務付けられた。

併せて、男女雇用機会均等法及び育児・介護休業法においても、セクシュアルハラスメントや妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントに係る規定が一部改正され、事業主に相談等をした労働者に対する不利益取扱いが禁止されるなど、ハラスメント対策の強化が進められている。

そこで、次の問いに答えなさい。

問1 ハラスメントが発生する要因について、あなたの考えを述べなさい。

問2 働く人がお互いを尊重し、ハラスメントのない職場を実現するため、どのような取組みを行えばよいか、あなたの考えを述べなさい。

専 門

※ 問題は【問 12】まであります。

【問 1】～【問 10】に関しては著作権保護の理由により非公表となっているため、例題を掲載しています。

新型コロナワクチンに関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 新型コロナワクチンの接種は、緊急の措置として厚生労働省の通達に基づいて行われており、予防接種法の規定は適用されない。
2. 新型コロナワクチンの接種によって十分な免疫が獲得された者は、新型コロナウイルスに感染しても無症状あるいは軽症であるため感染に気付かず、他の人に感染させることがある。これをブレークスルー感染という。
3. 新型コロナワクチンの接種は、妊娠中の者については推奨されているが、授乳中の者については避けるべきとされている。
4. 新型コロナウイルスに感染したことがある者は、二度と感染することはないため、新型コロナワクチンの接種をしないこととされている。
5. 新型コロナワクチンには、mRNA ワクチンがある。これは、ウイルスのたんぱく質をつくるもとになる遺伝情報の一部を注射するものである。

スクリーニング検査に関する次の文中のア～ウに入るものがいずれも妥当なのはどれか。

通常、スクリーニング検査では、陽性判定の基準値（どの値より異常であれば疾病を疑って陽性と判定するか）は固定されていない。陽性と陰性の判定をする境目の基準値を と呼び、敏感度と特異度を見ながら適切な値を設定する必要がある。

を高度な異常値から軽微な異常値に変更する、つまり、少しでも異常があれば陽性と判定するようにすると、 は上がり、 は下がる。

	ア	イ	ウ
1. カットオフポイント		偽陽性率	敏感度
2. カットオフポイント		偽陽性率	特異度
3. カットオフポイント		偽陰性率	敏感度
4. トレイドオフ		偽陽性率	敏感度
5. トレイドオフ		偽陰性率	特異度

母子保健法に規定されている産後ケア事業に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 母子保健法は、産後ケア事業を行うことについて、市町村には義務、都道府県には努力義務を課している。
2. 産後ケア事業の対象者は、出産後4月を経過しない女子と乳児とされており、乳児の父親を対象者とすることはできない。
3. 産後ケア事業は、短期入所事業と通所事業の二つの事業で構成され、対象者の居宅を訪問して産後ケアを行うことは「こんにちは赤ちゃん事業」において行うこととされている。
4. 産後ケア事業のうちの短期入所事業は、病院、診療所、助産所などに入所させて産後ケアを行うものである。
5. 産後ケア事業のうちの通所事業は、乳児院又は婦人相談所のいずれかに通わせて産後ケアを行うものである。

【問 11】 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成十年十月二日 号外法律第百十四号）における感染症について、（1）～（3）の問いに答えよ。

- （1） 二類感染症を6つ答えよ。
- （2） 五類感染症において、厚生労働省令で定める五類感染症の患者として医師による全数の届出が義務付けられている感染症を5つ答えよ。
- （3） 感染症指定医療機関について、次の表のア～ウに入るものを答えよ。

感染症指定医療機関種別	指定者
特定感染症指定医療機関	ア
第一種感染症指定医療機関	イ
第二種感染症指定医療機関	都道府県知事
結核指定医療機関	ウ

【問 12】 次の症例について、（1）～（5）の問いに答えよ。

<基礎情報>

氏名：Aさん

性別：女性

年齢：40歳

治療中疾病：なし

<健康診断結果>

ア 腹囲：82cm

イ BMI：25.6kg/m²

ウ 収縮期血圧：138mmHg

エ 拡張期血圧：62mmHg

オ LDLコレステロール：108mg/dl

カ HDLコレステロール：38mg/dl

キ 中性脂肪：167mg/dl

ク 空腹時血糖：102mg/dl

ケ HbA1c：5.4%

コ 喫煙：1本/日

- (1) 特定保健指導対象者となったことから、Aさんに保健指導を実施した。健康診断結果のア～コのうち、特定保健指導の対象となる判定値には○、対象にならない判定値には×で答えよ。
- (2) 保健指導中に「最近階段を登るとドキドキする」と話していたことから、脈拍を計測すると96回/分であった。「数年前の脈拍は、70回/分程度だった」との発言により、生活改善の前に代謝内科を受診して確認するように勧めたところ、バセドウ病であることが判明した。
バセドウ病の代表的な症状である眼球突出、頻脈、びまん性甲状腺腫のことを何の三徴というか答えよ。
- (3) 特定保健指導において、動機付け支援や積極的支援を実施しても、保健指導レベルが改善せず、繰り返し保健指導対象者となる場合がある。また、健診結果や生活習慣が改善したにもかかわらず、連続して保健指導対象者となる場合もある。
これらを踏まえ、2回目以降の対象者に対する支援として、厚生労働省の『標準的な健診・保健指導プログラム（平成30年度版）』に示されている留意点を簡潔に5つ述べよ。